

平成二十八年年度一般選抜学力検査問題

国語

(一時間目 六十分)

注意

- 一 問題用紙と解答用紙、メモ用紙のそれぞれの決められた欄に、受検番号と氏名を記入しなさい。
- 二 問題用紙は放送による指示があるまで開いてはいけません。
- 三 問題は1ページから6ページまであります。これとは別に解答用紙とメモ用紙がそれぞれ一枚あります。
- 四 答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号
氏名

一 「聞くこと」に関する検査

1 選択肢

- ア お客さんにお米の品種を知ってもらいたいから。
- イ お客さんに季節の変化を感じてもらいたいから。
- ウ お客さんに販売コーナーに来てもらいたいから。
- エ お客さんに学校行事に参加してもらいたいから。

4 選択肢

- ア 提案に対する疑問を次々に出すことで解決に迫っている。
- イ 提案を一つずつ検討して、よりよい考えを導き出している。
- ウ 次回の話し合いに向け、提案を批判的な目で吟味している。
- エ 事前に準備してきた資料を効果的に使って提案している。

二 次の1～3の問いに答えなさい。

1 次の①～⑤の——線部について、①②の漢字は読み仮名を書きなさい。また、③④⑤のカタカナは漢字に直し、楷書で書きなさい。

- ① 劇で威厳のある君主の役を演じる。
- ② 新雪の白さが青空に映える。
- ③ 春の訪れをツげるように花が咲く。
- ④ 音楽室からケイカイな曲が流れてくる。
- ⑤ 遊園地は若者たちでコンザツしていた。

2 次の①②の文について、() 中のア～エから最も適切なものを選び、それぞれ一つずつ選んで、記号を書きなさい。

- ① この相手には負けることはないだろうと(ア 肝を冷やす)。
- イ かぶとを脱ぐ ウ 二の足を踏む エ たかをくくる。
- ② 計画が(ア 絵に描いた餅) イ 立て板に水 ウ 腐っても鯛(エ 水と油)にならないように確実に実行する。

3 次の文中の「寒さ」を、後のように説明した。「A」「B」に入る品詞として適切なものを、() 中のア～エからそれぞれ一つずつ選んで、記号を書きなさい。

・三月になり、寒さが和らいできた。

「寒さ」は「寒い」という「A」の語幹「寒(さむ)」に、接尾語の「さ」が付いて、「B」に変わった単語である。

(ア 動詞) (イ 形容詞) (ウ 形容動詞) (エ 名詞)

三 次の文章を読んで、1～5の問いに答えなさい。

むかし、天智天皇と申すみかどの、野にいでて鷹狩せさせ給ひけるに、御鷹、風にながれてうせにけり。むかしは、野をまもる者ありけるに、召して、「御鷹うせにたり、たしかにもとめよ」と仰せられければ、かしこまりて、「御鷹は、かの岡の松のほつえに、南にむきて、しか侍る」と申しければ、おどろかせ給ひにけり。「そもそもなんぢ、地にむかひて、かうべを地につけて、ほかを見る事なし。いかにして、こずゑにゐたる鷹のあり所を知る」と問はせ給ひければ、野守のおきな「民は、公主におもてをまじふる事なし。しばのうへにたまれる水を、かがみとして、かしらの雪をもさととり、おもてのしわをもかぞふるものなれば、そのかがみをまぼりて、御鷹の木居を知れり」と申しければ、そののち、野の中にたまりける水を、野守のかがみとはいふなりとぞいひつたへたる。

『俊頼髓脳』による

【注】

- *鷹狩せさせ給ひけるに……鷹狩（飼い慣らした鷹を放って小動物を捕らえさせる狩）をなさっていたところ
- *野をまもる者……皇室が所有する狩猟用の野原の番人、野守
- *召して……呼んで
- *しか……そのように
- *公主……君主
- *しばのうへ……草の生えているあたり
- *まぼりて……見つめて
- *木居……木の枝にとまっていること

1 ① みたる ② つたへたる を現代仮名遣いに直して書きなさい。

2 A～Dの——線部のうち、主語が他と異なるものを、一つ選んで記号を書きなさい。

3 おどろかせ給ひにけり について、天智天皇が驚いた理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

ア 鷹狩に使うほどの強い鷹が、風に流されてしまったから。

イ 野守が身分の違いをわきまえず、とっさに口を開いたから。

ウ 野守が頭を地につけたまま、鷹の居場所を言ったから。

エ 風に流されていなくなった鷹が、実際は近くにいたから。

4 かしらの雪 は何を表した比喻表現か。五字以内の現代語で書きなさい。

5 この文章を読んで、「野守のかがみ」という言葉について、次のようにまとめた。「a」には適する内容を十字以内の現代語で書き、「b」には後のア～エから当てはまる内容として最も適切なものを、一つ選んで記号を書きなさい。

この出来事から、「a」を「野守のかがみ」と言うようになった。野守としての役割を果たしてきた「おきな」の「b」に対する人々の感嘆の思いが生んだ言葉だと言えるだろう。

- ア 独特で巧妙な話術
- イ 自然に身に付いた風格
- ウ 日々鍛えた精神
- エ 経験から得た知恵

四 次の文章を読んで、1～4の問いに答えなさい。

五 次の文章を読んで、1～4の問いに答えなさい。
